

## 太平洋戦争の思い出

加藤 稔（西面在住）

戦争は私が小学校「国民学校」に入学した年の昭和16年12月8日に、日本軍がアメリカのハワイ真珠湾を攻撃して、長いながい悲惨な戦争が始まりました。

初めの頃は「勝った」「勝った」と大変な祝勝ムードで一杯だったようです。ところが昭和17年から昭和18年になりますと戦況が少しずつ変わってきました。当時の報道は現代のような正確な伝わり方がしていなかったようです。本当は戦況が悪くなって来ていました。国内では食料をはじめいろいろな物資が不足始めていました。開戦当初に占領した島々は奪い返され、その度に多数の兵隊さんが戦死されたようです。戦況は一段と悪くなり、私たち学童も食料増産のため柱本の淀川河川敷にサツマイモ等を作り始めました。そして、勉強の時間もだんだんと少なくなっていきました。

そして、米軍が日本本土近くに攻め入って来ました。昭和19年に入り北九州を B29 空襲、沖縄を空襲、B29 が東京を初めて空襲しました。昭和20年3月には東京の大空襲、名古屋、大阪、神戸と空襲が続き、4月には沖縄本島に米軍が上陸し、沖縄は悲惨な戦場となりました。その時に傷ついた人々の為に頑張ったのが、後に映画にもなった「ひめゆり部隊」と云われた女子学生のことのようです。この頃には B29 という大型機が日本本土を空襲し続けたので、大都市の学童は田舎のお寺や集会所へ集団疎開を始めました。三箇牧国民学校にも大阪市内から来ていたように思います。

昭和20年の3月に B29 によ

る大空襲を受け、東京、名古屋、大阪等は一面が焼け野原になってしまいました。大阪空襲の時のことは、今でもはっきり覚えています。私は屋根の上に登って大阪市内の空をじっと見ていました。『雨が降り出したような音が聞こえて、しばらくすると一段と空が明るく見えました』。私は、ただ呆然と見つめていました。

20年の6月頃になりますと、グラマンとか言う艦載機が人を狙ってくるようになりました。大阪市内では駅等の人の集まる所を狙ってきたようです。そして、この頃だったと思いますが、西面の田圃に不発の焼夷弾が落ちていた事もありました。より一層悪い状況のなか聞こえてきたことは、鹿児島周辺の基地から片道だけの燃料に爆弾を積んで出撃して行った特攻隊のこと、また、世界最大といわれた戦艦大和が出撃間もなく3千人以上の乗組員と共に沈んだこと等、悲しいニュースばかりが伝わりました。

そして、月日は覚えていませんでしたが、私はとても恐ろしい出来事に遭いました。昭和20年7月の初め頃(7月9日)だと思いますが、その日、私は学校にいまして10時を過ぎた頃だと思います。空襲を知らせるサイレンが聞こえてきましたので、私は「先生空襲や！ 早く帰ろう」と、カバンを持って級友と走って校門の所まで来ましたが、弟がいることを思い出し、弟を呼びに行き、弟をつれて3人か4人



かで神社の横まで来ましたとき、その時は、もう敵機はバリバリと機銃を発射しながら目前に迫っていました。私は慌てて何人か一緒に神社の中に駆け込みました。敵機は2機だったと思います。旋回して神社に向かって撃ってきたような気がしました。足がガタガタ震えていたような記憶があります。

そして、気が付くと拝殿が燃え上がっていました。神社の中に何人いたか定かではありませんが、15、6人はいたように思います。一人も怪我することもなく無事だったことは神社の神様が私たちを守ってくれたのかも知れません。私は本当に怖い経験をしました。後で聞いた話ですが、機銃によって土蔵の壁に貫通の痕が残っていたということですが今は修理されてわかりません。また、その時土蔵の中の柳行李の蓋の部分に弾の通った痕があったと聞きました。今も残っているかもしれません。

私たちが銃撃を受けて1ヶ月ぐらい後でしょうか。日本は世界初のすごい爆弾を投下されました。原子爆弾です。8月6日には広島、9日には長崎に投下され、この爆撃によって多数の死傷者が出ました。それで四年近くに及んだ太平洋戦争は終わりを告げることになりましたが、終わってから大変でした。梅田周辺には闇市なるものができ、食料不足が大変だったようです。西面では一晩に3頭、4頭と牛が盗まれる事件がありましたが、戦後61年、日本は平和が続いています。戦争は絶対に起してはなりません。

平和な時代が続きますようお願いしております。

平成18年9月5日(記)